

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成27年4月24日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

全国に誇るくまもとの農業トップ10！ ～赤だけじゃない(?) くまもとの農業～



くまもとの「赤」と言えば、皆さんはどんなものを思い浮かべますか？

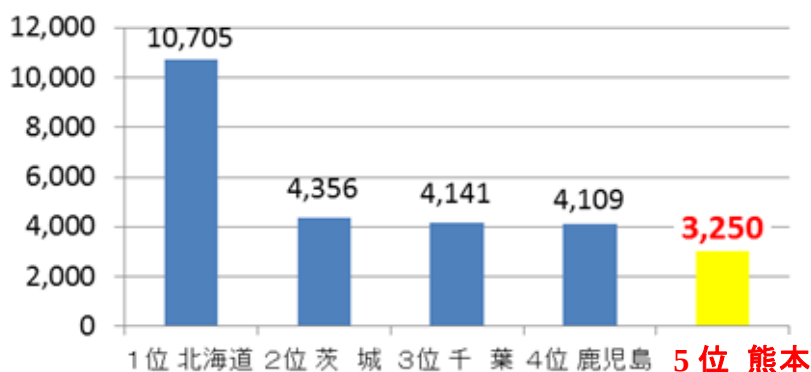
トマト、すいか、いちごなど色々なものがありますよね。

でも、実はくまもとは赤以外でも全国トップ10に入る様々な農産物があるんです。

そこで今回は、平成25年の生産農業所得統計（農林水産省）の結果から全国トップ10に入る熊本の農産物を紹介したいと思います。

熊本県の農業産出額は全国第5位で、その主な内訳を見ますと野菜（第4位）、工芸農作物（第5位）、果物（第7位）、畜産（第7位）となっています（表1・2参照）。

表1 平成25年 都道府県別農業産出額
(単位: 億円)



このように野菜が産出量、全国順位ともに一番高いことが分かります。この「野菜」ですが、この統計上「野菜」に含まれるものは、私たちが実際に「野菜」って思っているものとちょっと違うものが含まれているんです。



表2 熊本県の主な内訳(全国順位順)

	産出額(単位: 億円)	順位
野菜	1,172	4
工作農作物	115	5
果物	334	7
畜産	996	7

(出典: 生産農業所得統計)



ここで問題です。ここでの統計上の「野菜」って何だか分かりますか？「何を今さら！」と思われるかもしれませんがね。

実は「くまもとの赤」の代表であるトマト（全国第1位）、すいか（全国第1位）、いちご（全国第4位）はこの統計上、果物ではなく、すべて野菜に分類されます。

トマトはともかく、すいか、いちごが野菜に分類されるとは、恥ずかしながらこれを調べるまで知りませんでした...（反省）

ちなみにメロン（全国第3位）もこの統計上、野菜となります！ これも少し意外な気がしますね。

それでは、いよいよ**全国トップ10**に入る**熊本の農産物**を見てみましょう（表3）

表3 熊本県の全国トップ10農産品（平成25年）

No.	品 目	産出額(億円)	順位
1	トマト	410	1
2	すいか	104	1
3	なす	84	2
4	生乳	243	3
5	メロン	105	3
6	肉用牛	326	4
7	みかん	160	4
8	いちご	106	4
9	乳牛	26	4
10	アスパラガス	22	4
11	かんしょ	27	6
12	洋ラン(鉢)	13	8
13	ごぼう	13	8
14	ピーマン	12	8
15	たまねぎ	10	8
16	キャベツ	33	9
17	レタス	26	9
18	茶(生葉)	11	9
19	にんじん	17	10

（出典：生産農業所得統計）

各農産物を色別に分けて見てみると、「赤」が7品目でトップ、続いて「緑」が6品目、「白」が3品目となっています。やはり、「熊本の赤」というだけあって全国順位が高い品目に「赤」が多いようですが、「緑」もなかなか検討しています。

この結果を見ると「くまもとの赤」ならぬ「熊本の赤と緑」と言ってもいいかも知れません。それだけ、熊本がおいしい農産物に恵まれているという証拠でしょうね...

新たな年度が始まり、1ヶ月近く経ちましたが新しい環境で少しお疲れの方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

今の季節、旬を迎えた熊本のすいか、メロン、キャベツ（春キャベツ）など熊本のおいしい農産物で疲れを乗り切りましょう！



熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、5月29日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成27年5月29日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



熊本県のこどもたち！



～こどもの割合は全国第6位～

今月は、5月5日の「こどもの日」にちなんで、総務省より「我が国のこどもの数」について公表されましたので、こどもの数を中心に見ていきたいと思います。

総務省によると、平成27年4月1日現在のこどもの数(15歳未満人口)は、1617万人と昭和57年から34年連続で減少、こどもの割合も12.7%と昭和50年から41年連続低下し、いずれも過去最低となりました。

なお、熊本県のこどもの割合は、平成26年10月時点で13.6%と全国6位となっています。(表1)

(表1)

都道府県別こどもの数及び割合(平成26年10月1日現在)

全国順位	都道府県	こどもの数(千人)	割合(%)
第1位	沖縄県	249	17.5
第2位	滋賀県	207	14.6
第3位	佐賀県	118	14.2
第4位	愛知県	1,041	14.0
第5位	宮崎県	153	13.8
第6位	熊本県	244	13.6
第6位	鹿児島県	227	13.6

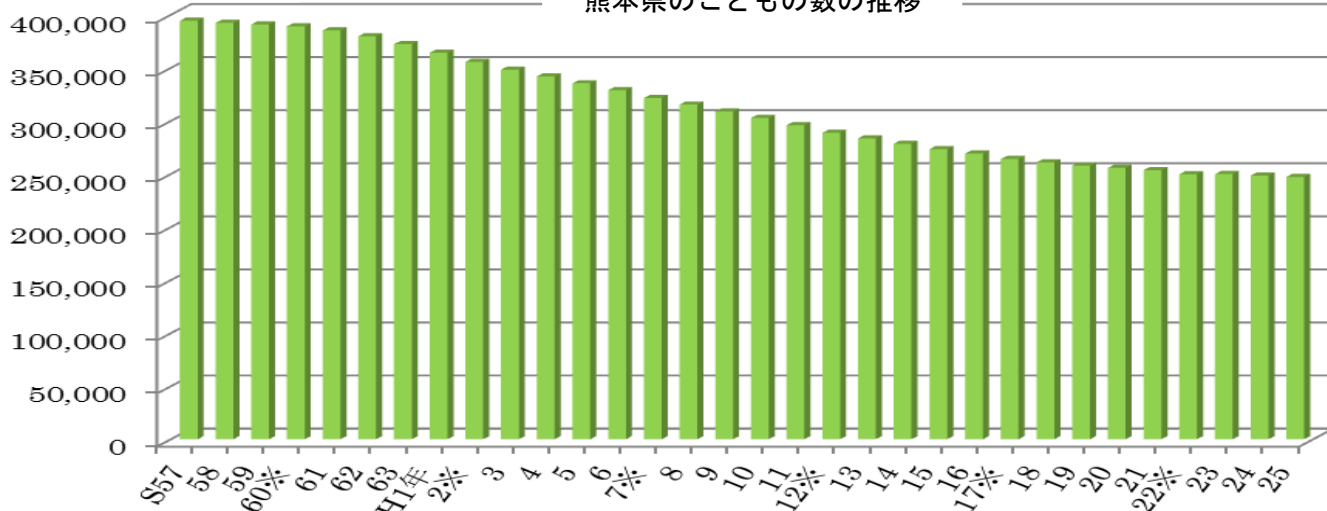
【出典：平成27年5月4日付け総務省報道資料

統計トピックスNo.89「我が国のこどもの数―「こどもの日」にちなんで」(「人口推計」から)】

次に、熊本県のこどもの数の推移(昭和57年以降)について見てみましょう。図1のとおり熊本県のこどもの数は、全国同様、減少傾向にあり、昭和57年の39.4万人から、平成25年には24.7万人となり、37%減少しています。(図1)

(図1)

熊本県のこどもの数の推移

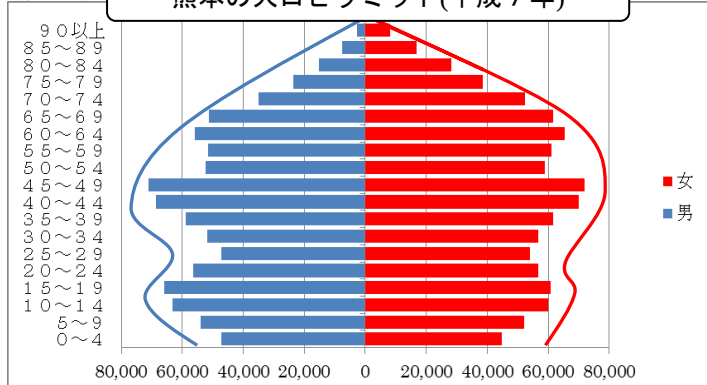


注) ※印は国勢調査の結果(S60、H2、H7、H12、H17、H22)、その他は推計人口

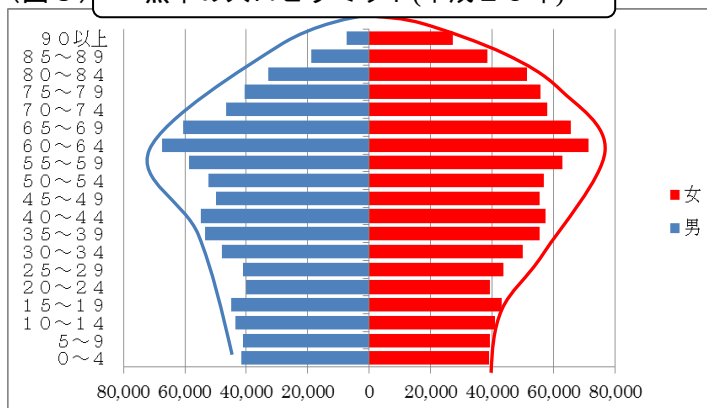
(出典：国勢調査及び熊本県推計人口調査)

こどもの数が減り続けていることが分かりましたが、今度は将来のこどもの数が気になるところで。そこで、平成7年、平成25年の人口ピラミッドと国立社会保障・人口問題研究所が人口を予測している平成47年の人口ピラミッドで見ていきましょう。

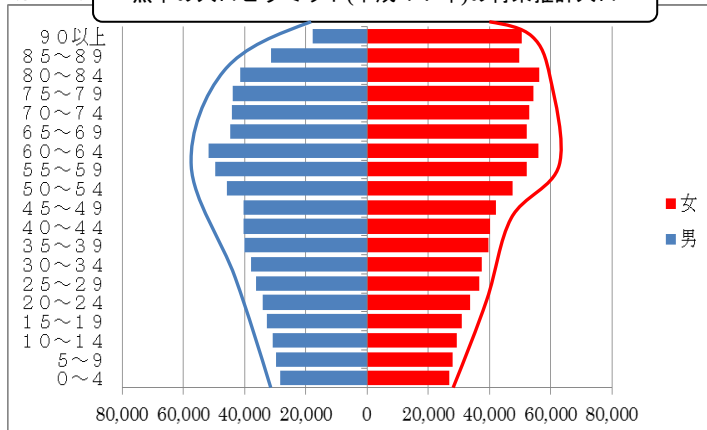
(図2) 熊本の人口ピラミッド(平成7年)



(図3) 熊本の人口ピラミッド(平成25年)



(図4) 熊本の人口ピラミッド(平成47年)の将来推計人口



こどもの数を人口ピラミッドで比較すると平成7年の32万人から平成25年には、24.7万人と減少しています。(図2・図3・図5)

さらに、20年後の平成47年の予測人口では、17万人と7万人も少なくなっています。(図4・図5)

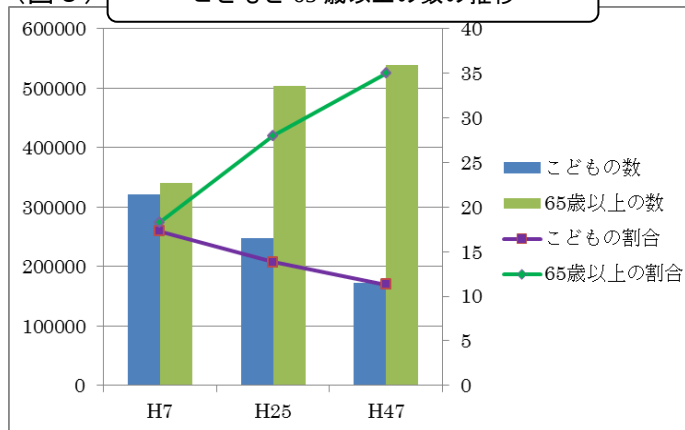
一方で65歳以上は数も割合も、とても増えています。(図5)

この結果、人口ピラミッドの形状は、ひょうたん型から、逆三角形にだんだん近づいていくことが分かります。

今年10月には5年に1度の国勢調査が実施されます。将来人口を見据えるうえでも重要な調査になりますので、御協力をお願いします。



(図5) こどもと65歳以上の数の推移



(出典：国勢調査、推計人口及び日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)【国立社会保障・人口問題研究所】)

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、6月26日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成27年6月26日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



「ジュンブライド」って ～6月の婚姻件数は～



「ジュンブライド」とは、6月に結婚式を挙げることであり、6月に結婚すると幸せになれるといわれています。

でも、熊本は梅雨の真っ最中なのですが…



それでは、ジュンブライドにちなんで婚姻の件数は、何月が多いのか。6月はどれくらい婚姻件数があるのか見てみましょう。

平成26年で見てみると、婚姻件数が多いのは、熊本県・全国ともに3月であり、熊本県は1,032件(11.4%)、全国は69,869件(10.6%)となっています。

婚姻件数が少ない月は、熊本県・全国とも9月であり、熊本県は600件(6.6%)、全国は43,076件(6.5%)となっています。

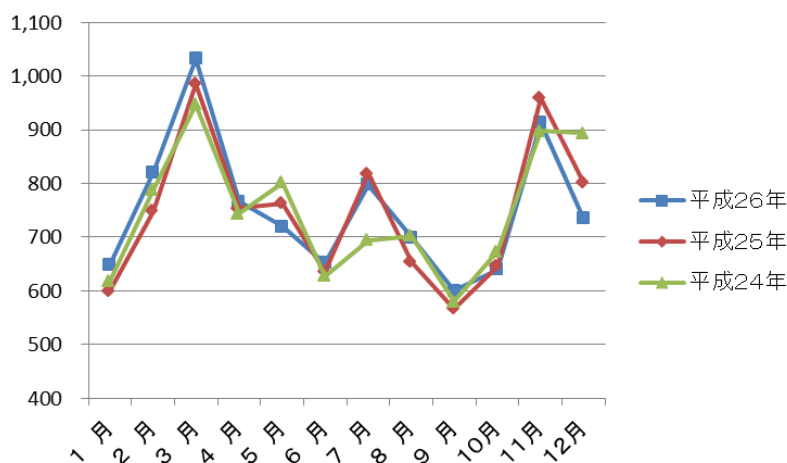
ジュンブライドの6月の婚姻件数は、熊本県で652件(7.2%)で4番目に少なくなっています。全国では、50,236件(7.6%)で5番目に少なくなっています。

グラフで見ると、3月・11月が婚姻件数が多く、9月が一番少なくなっています。

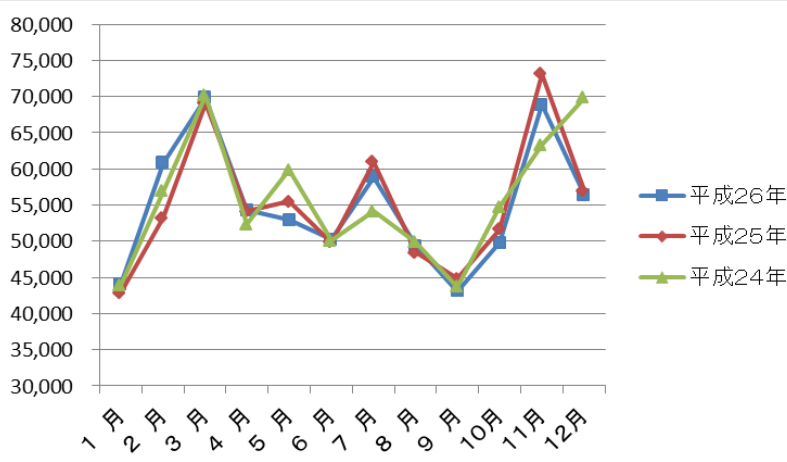
(出典：人口動態統計)



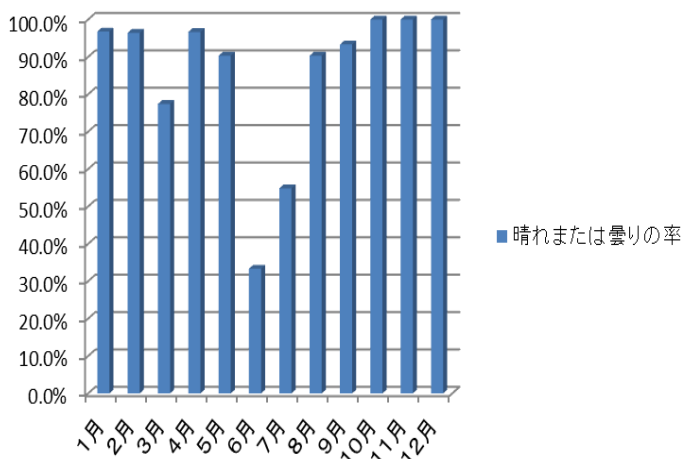
婚姻件数(熊本)



婚姻件数(全国)



熊本の天気の出現率



これまでで、6月はジュンブライドというものの、婚姻件数は決して多くはないことが分かりました。

今度は、全国から見た熊本県の婚姻の状況がどうなっているか見ていきたいと思います。

平成25年の婚姻率では、熊本県は5.0件/千人で全国第15位となっています。

九州で見ると、沖縄県の6.3件/千人、福岡県の5.6件/千人、宮崎県の5.1件/千人について4位となっています。

(出典：人口動態統計)



このように月別の婚姻件数や天気の出現率のグラフから、婚姻には気候が深く関係しているようで、暑すぎず、寒すぎず快適で過ごしやすい、3月や11月が多くなっているようです。

特に、11月は「文化の日」や「勤労感謝の日」と祝日があり、それに「いい夫婦の日(11月22日)」があることが、婚姻件数の多い理由の一部なのかもしれませんね。

それでは、「ジュンブライドの方」も、「6月以外に結婚された方」も、明るく楽しい家庭で末永くお幸せに

天気との関係を見ると、気象庁の天気の出現率(熊本)で、晴れまたは曇りの日を見てみると、6月が33.3%と年間を通じて晴れの日が一番少なく、雨がよく降ることが分かります。

雨が6月の婚姻件数を少なくするひとつの要因であると考えられるようです。

(出典：気象庁 天気の出現率(熊本))



都道府県別婚姻件数及び婚姻率(平成25年)

全国順位	都道府県	婚姻件数	婚姻率(人口千対)
1位	東京都	88,067	6.8
2位	沖縄県	8,803	6.3
3位	愛知県	42,302	5.8
4位	神奈川県	49,769	5.6
4位	大阪府	48,596	5.6
4位	福岡県	28,183	5.6
7位	滋賀県	7,465	5.3
8位	宮城県	11,985	5.2
8位	栃木県	10,152	5.2
8位	広島県	14,495	5.2
〃	〃	〃	〃
15位	熊本県	8,934	5.0

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、7月31日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成27年7月31日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



熊本に移住する人はどんな人？

ー平成22年国勢調査の結果からー



近年は、人口減少や高齢化がよく話題になりますね。特に日本創生会議（民間の有識者でつくる団体）の提言では、昨年の「**消滅可能性都市**」とか、今年6月の「**首都圏の介護難民**」などのショッキングな言葉が報道されたことは記憶に新しいところですね。

要は、少子高齢化と東京一極集中をなんとか解消したいということのようです。

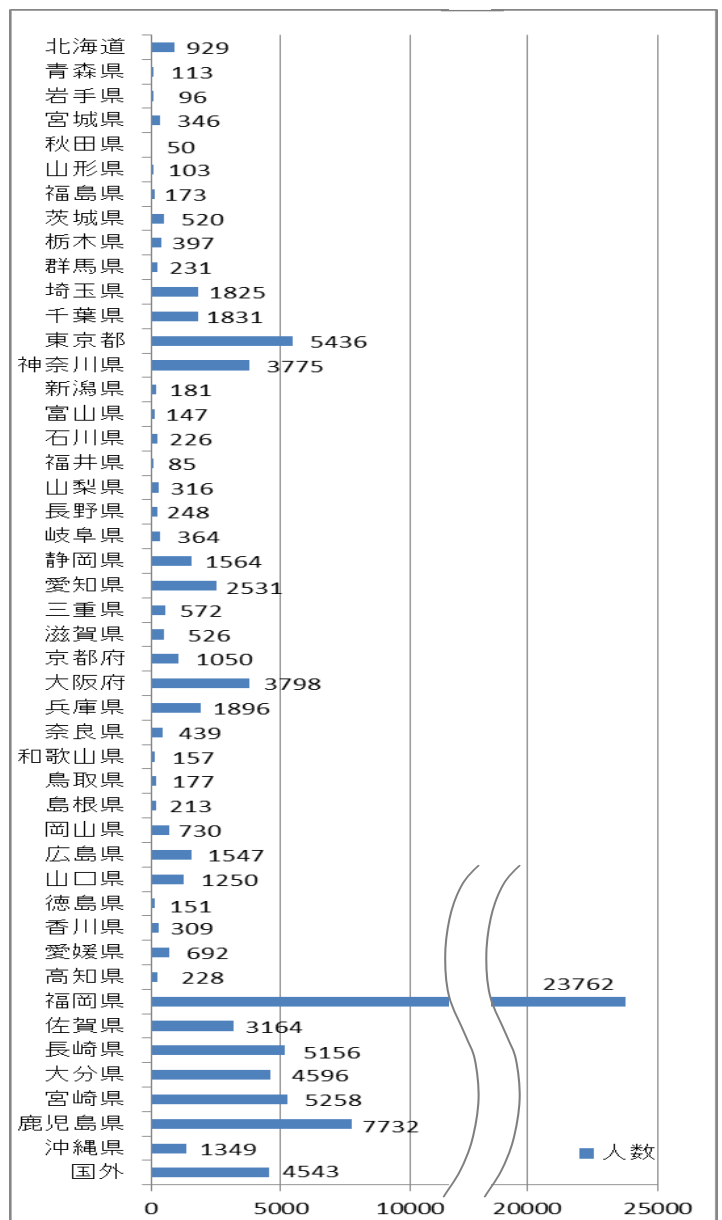
そういう大きな話は置いて、熊本の人口増を考えてみたら（これでも十分大きな話ですね！）、単純に県外からの移住が増えればいいじゃないかと考えますよね。だったらどんな人が移住しているのか調べようと思いついたわけです。

そこで、**平成22年国勢調査の結果**を使って調べてみます。

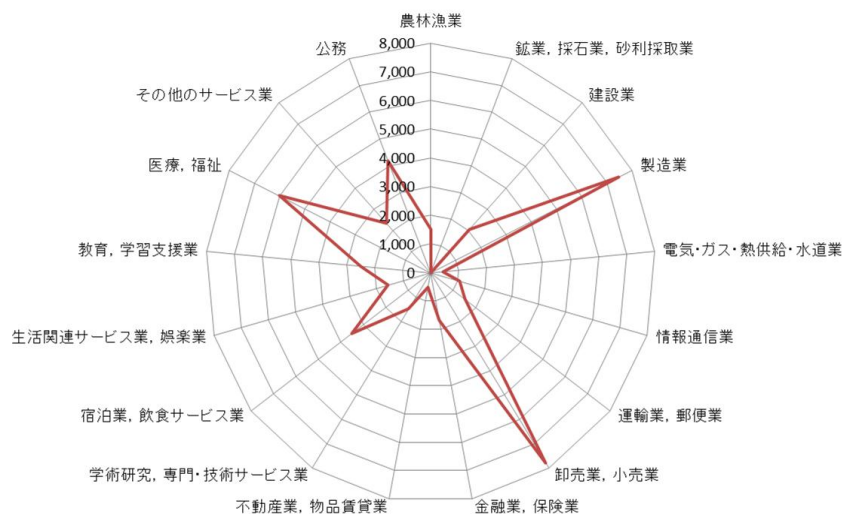
まず、**どの都道府県から移住しているか**見てみましょう。国勢調査では、熊本県居住者の5年前の居住地がわかりますが、平成17年に熊本県外に居住し、平成22年に熊本県内に移住した人は右表のとおりです。

この熊本県内に移住した人は、合計で90,782人です。**1位は福岡県で23,762人、2位は鹿児島県の7,732人、3位東京都5,436人**、4～6位は宮崎県、長崎県、大分県と九州内が続いています。

九州だけで49,668人と全体の55%を占めており圧倒的に多いことがわかります。東京や大阪から支社（支店）へ転勤する人が多いのかと思いきや、ちょっと意外な気がしませんか？九州内の本社・支社（支店）が多いのでしょうか？



次に、**熊本への移住者の従事する産業**を見てみましょう。国勢調査では、15歳以上の移住者の産業別人数が出ています。表をみると15歳以上の移住者は77,872人で、農林漁業から公務までの産業が出ています。「分類不能の産業」以下は、家事や学生などの人数を含んでいます。



産 業	人 数
農林漁業	1,521
鉱業、採石業、砂利採取業	5
建設業	2,050
製造業	7,471
電気・ガス・熱供給・水道業	443
情報通信業	1,084
運輸業、郵便業	1,521
卸売業、小売業	7,796
金融業、保険業	1,691
不動産業、物品賃貸業	515
学術研究、専門・技術サービス業	1,486
宿泊業、飲食サービス業	3,519
生活関連サービス業、娯楽業	1,585
教育、学習支援業	2,493
医療、福祉	6,010
その他のサービス業	2,321
公務	4,187
分類不能の産業	916
完全失業者	4,375
非労働力人口	26,023
不詳	860
合 計	77,872

産業別では**1位が卸売業・小売業で7,796人、2位が製造業で7,471人、3位が医療・福祉の6,010人**となっています。公務が4位で意外と多いですね。

ここで、15歳以上の産業別就業者数をみると、1位が卸売・小売業の136,655人、2位は医療・福祉の116,366人、3位は製造業105,570人で、移住者の順位と較べると製造業と医療・福祉の順位が入れ替わっていますね。従業者数に比して医療・福祉より製造業の方が移住者が多いということは、製造業の吸引力が大きいということでしょうか？これは、県外への移住もみる必要がありますね！

ほかにも見ようと思ったら、都道府県ごとの年齢別や職業別も調べられます。「恐るべし国勢調査！」といったところでしょうか。ということで・・・今年は5年に1回の国勢調査です。

スマート国勢調査2015

国勢調査は、日本国内に住むすべての人と世帯を対象とした調査です。今回は、**インターネットの回答ができる**ようになりました。(もちろん、**スマホ・タブレットもOK**です。)

インターネット回答
9月10～20日

ネット回答すると
調査票回答は不要

調査票(紙)の回答
10月1～7日

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、8月28日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部統計調査課交通政策・情報局 総務資料班 〒869-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成27年8月28日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



どこで寝て、どこで働く？

－夜間人口と昼間人口－



今回は、平成22年国勢調査の結果から、熊本県に移住する人がどんな人が調べてみました。今回も同国勢調査から市町村に焦点をあてて「**夜間人口**」と「**昼間人口**」を見てみたいと思います。「**夜間人口**」とは、常住している住居等（**寝る場所**）でカウントされ、普通に「人口」という場合はこれを指しています。「**昼間人口**」は、通勤・通学により昼間活動している場所（**働く場所**）でカウントされるものです。

各市町村(15歳以上)の人口

市町村名	夜間人口	昼間人口	小国町	4,178	4,051
熊本市	378,649	401,061	産山村	937	858
八代市	65,778	65,997	高森町	3,442	3,225
人吉市	17,906	20,507	西原村	3,820	4,085
荒尾市	25,495	19,014	南阿蘇村	6,676	5,982
水俣市	12,558	13,591	御船町	9,339	7,300
玉名市	36,049	33,990	嘉島町	4,513	5,878
山鹿市	29,092	27,254	益城町	16,577	14,255
菊池市	26,758	27,715	甲佐町	5,979	5,198
宇土市	19,290	15,004	山都町	9,489	9,261
上天草市	13,928	12,881	氷川町	6,644	4,531
宇城市	32,152	31,039	芦北町	9,114	8,064
阿蘇市	15,078	15,405	津奈木町	2,413	1,543
天草市	42,034	41,861	錦町	5,990	6,299
合志市	28,130	22,303	多良木町	5,591	5,597
美里町	5,568	4,205	湯前町	2,307	1,774
玉東町	2,983	1,906	水上村	1,218	1,008
南関町	5,566	5,561	相良村	2,613	2,184
長洲町	8,169	8,722	五木村	570	698
和水町	5,833	5,569	山江村	1,975	1,113
大津町	16,435	20,756	球磨村	1,954	1,201
菊陽町	19,596	17,027	あさぎり町	8,801	8,070
南小国町	2,634	2,589	苓北町	4,049	4,194

長く続いた昔の農耕社会では、「**働く場所**」と「**寝る場所**」は近接していましたので昼夜の人口差など問題になりませんでした。でも、産業等が発達した現代では、生活が広域化し、地域の役割分担（工業地帯、ベッドタウンなど）が進んでいます。そのため、市町村間で人の移動があり、昼夜の人口差で市町村間の結びつきが分かります。さあ、調べてみましょう。

左表は、市町村別の15歳以上の「**夜間人口**」と「**昼間人口**」を示しています（「15歳以上」としたのは、市町村間の移動が、より鮮明になると思われるからです）。

昼間人口は「働く場所」の人数ですから、生産力に比例して多くなると言ってもいいでしょう。つまり、稼げる地域ということです。ですので、**夜間人口**より**昼間人口**が多い市町村は、経済面で「**人口増加の余地がある**」と考えてもいいかもしれません。

逆に、**夜間人口**が**昼間人口**より多い市町村はどうかというと、他の市町村からいわ

ば「**外貨を稼いでいる**」ということにもなります。モノは考えようですね！

表に戻りますが、県内各圏域の中心となる市をみると、**昼間人口**より**夜間人口**の方が多いい市が結構ありますね。経済面での求心力が低下しているのでしょうか？ここで、「**昼間人口÷夜間人口**」を「**昼間人口率**」として、「昼間人口率」の小さい順にグラフにしてみましょう。

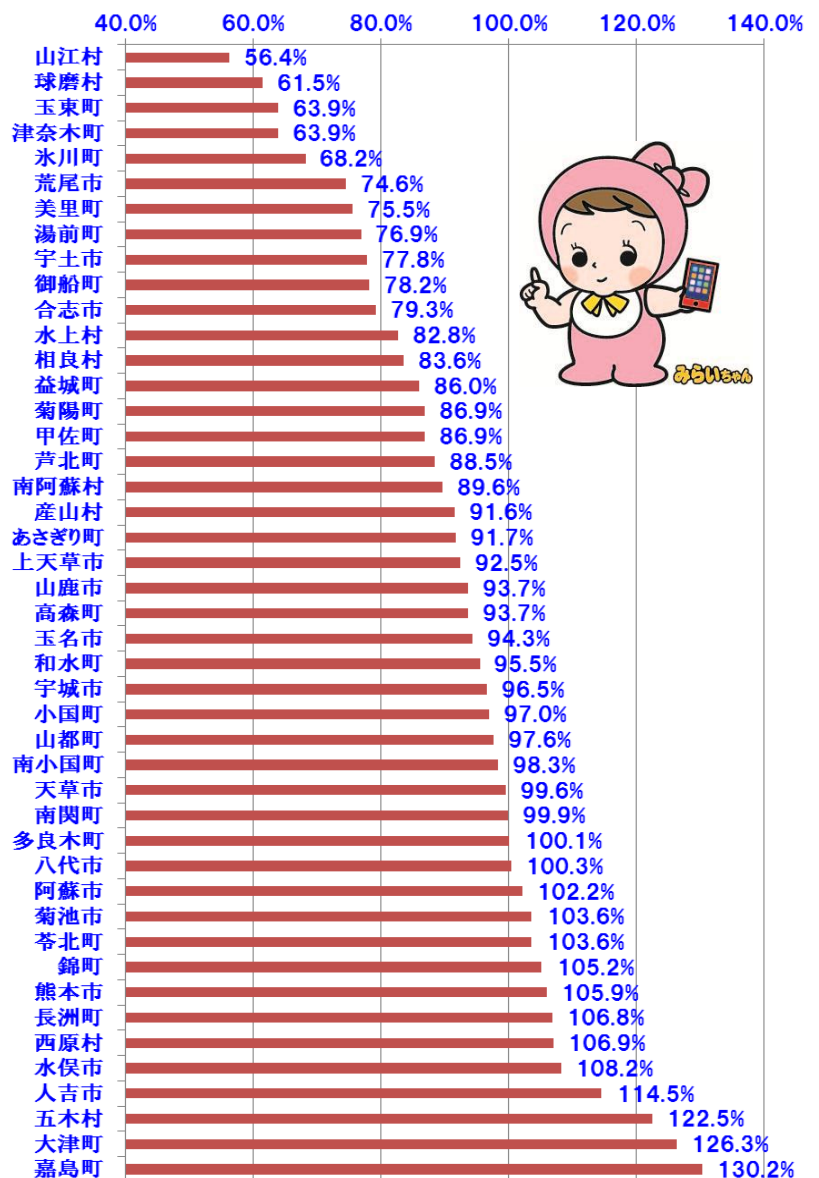
ちょっと見にくいですが**1位は山江村**、**2位は球磨村**、**3位は玉東町**です。昼間人口率の多い順で行くと、**1位は嘉島町**、**2位は大津町**、**3位は五木村**になっています。なかなか興味深いですね～。

ここで、**山江村**について、村外へ通勤・通学している1,200人はどこに行っているのか見てみると、**人吉市752人**、**錦町164人**で併せて76%です。逆に村へ通勤している人は全部で319人で、**人吉市184人**、**錦町37人**の順位です。

次に**嘉島町**を見てみましょう。町外から4,281人の通勤がありますが、うち**熊本市2,394人**、**御船町464人**、**益城町294人**、**宇城市246人**、**甲佐町235人**で、この5市町で85%を占めています。逆に町外への通勤・通学者は2,931人で、うち**熊本市2,054人**、**御船町231人**、**益城町112人**となっており、偶然かもしれませんが流入・流出(?)の市町村順位が同じですね！

各市町村で細かく見ていくと相互依存関係が分かりそうですね。他にも、居住期間が分かれますので、時系列でみていくと生活圏の変化も分かりそうです。やっぱり「恐るべし国勢調査！」ですね。ということで再び・・・**今年は5年に1回の国勢調査**です。

昼間人口率



スマート 国勢調査

インターネット回答
9月10～20日

ネット回答すると
調査票回答は不要

調査票(紙)の回答
10月1～7日

国勢調査は、日本国内に住むすべての人と世帯を対象とした調査です。今回は、**インターネットの回答ができる**ようになりました。(もちろん、**スマホ・タブレットもOK**です。)

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、9月25日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部統計調査課交通政策・情報局 総務資料班 〒869-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

県内の事業所数、従業者数は？ ～平成26年経済センサス-基礎調査結果(速報)から～

先日から「平成27年国勢調査」が始まりましたが、日本で行われている統計調査には、もう一つ「国勢調査」があるのをご存知ですか。

それは、「経済の国勢調査」といわれる調査で、正式名称を「**経済センサス**」といいます。

「**経済センサス**」は、日本全国にあるすべての事業所及び企業を対象として実施される調査であり、事業所・企業の基本的構造を明らかにする「**基礎調査**」と、事業所・企業の経済活動の状況を明らかにする「**活動調査**」の2つから成り立っています。

今回は、先日公表された「平成26年経済センサス-基礎調査」の速報集計結果の一部をご紹介します。

表1 熊本県内における事業所数、従業者数

区分	総数	民営	国、地方 公共団体	民営			
				平成26年 (再掲) (a)	平成24年 (b)	増加数 (a-b)	増加率 (a-b)/b
事業所数(所)	82,060	79,439	2,621	79,439	79,219	220	0.3%
従業者数(人)	784,961	711,945	73,016	711,945	701,614	10,331	1.5%

経済センサスキャラクター
ビルくん&ケイちゃん

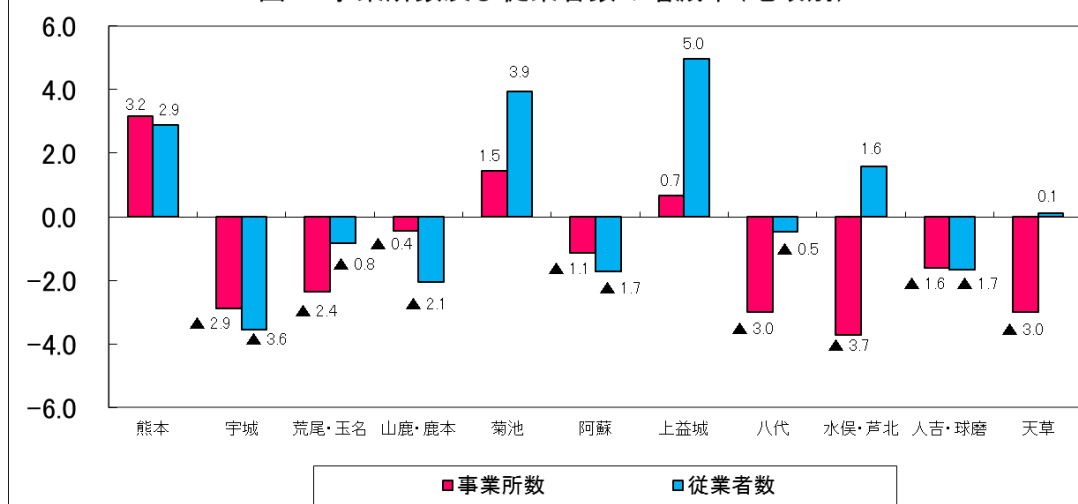


出典:「平成26年経済センサス-基礎調査(速報)」、「平成24年経済センサス-活動調査(確報)」

表1は、県内の事業所数及び従業者数を示したものです。

民営の事業所数、従業者数については、前回調査(平成24年経済センサス-活動調査、以下同じ)に比べて増加しています。

図1 事業所数及び従業者数の増減率(地域別)



次に、県内の各地域の状況はどうなっているでしょうか。

図 1 は、民営の事業所数及び従業者数について、前回調査からの増減率を地域別に表したものです。熊本（熊本市）、菊池（菊池市、合志市、菊池郡）、上益城（上益城郡）の 3 地域において、事業所数、従業者数ともに増加していることがわかります。

では、これらの地域別状況を踏まえて、熊本県の人口の動きを見てみましょう。

表 2 は、平成 26 年 7 月 1 日現在（平成 26 年経済センサス-基礎調査の調査基準日）の推計人口対前年増加率が上位 5 位までの県内市町を示しています。ご覧のとおり、すべて菊池地域、上益城地域の市町となっています。（ちなみに、熊本市も増加率で上位 5 位には入っていないものの、対前年比で増加しています。）

このことから、人口の増加と事業所の増加は関連性があることがデータで証明されていることが言えるでしょう。

表2 推計人口対前年増加率
上位5市町
(平成26年7月1日現在)

対前年増加率（％）		
1位	合志市	1.518
2位	菊陽町	1.517
3位	大津町	1.204
4位	益城町	0.794
5位	嘉島町	0.777

出典：熊本県推計人口調査

ところで、「平成 26 年経済センサス-基礎調査」は、「平成 26 年商業統計調査」と同時に実施されました。商業統計調査は、我が国の商業の実態を明らかにするため、全国の卸売業、小売業を対象として実施されています。

ここで、「平成 26 年商業統計調査」の調査対象であった、卸売業、小売業の年間商品販売額の集計結果をご紹介します。

表3 卸売業・小売業における年間商品販売額の推移

	年間商品販売額（百万円）			
	平成26年	平成24年	増加数	増加率
	(a)	(b)	(a-b)	(a-b)/b
全国計	492,804,280	450,927,646	41,876,634	9.3%
熊本県	3,816,519	3,222,289	594,230	18.4%

出典：「平成26年商業統計調査（速報）」、「平成24年経済センサス-活動調査（確報）」



表 3 は、「平成 26 年商業統計調査」速報集計結果における年間商品販売額を、前回調査と比較したのですが、全国計、熊本県とも、増加しています。

また、増加率でみると、熊本県は全国の数値を大きく上回っています。この結果は、県内事業所の皆様による営業努力のたまものですし、われらがくまモン営業部長（ダイエット失敗で一時期降格していましたが（笑））を筆頭に行った各種の PR 活動も、貢献しているのではないのでしょうか。

ここまで、平成 26 年経済センサス-基礎調査、平成 26 年商業統計調査の結果を紹介してきましたが、より詳しい結果は熊本県ホームページ（各種統計調査「熊本のデータ」）に掲載しています。興味のある方は是非ご覧ください。（国が公表している全国の結果へのリンクもあります。）

最後に、皆様にちょっと早めのお知らせですが、来年の 6 月 1 日に「平成 28 年経済センサス-活動調査」が実施されます。調査へのご協力をよろしくお願いします。

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、10月30日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成27年10月30日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



読書の秋



～あなたは読書派ですか？スマホ派ですか？～



暑かった今年の夏も過ぎて、紅葉深まる秋になってきました。

通勤途中のバスのなかでは、今も昔も変わらず居眠りする人、本を読む人、また最近はスマートフォンを操作するひとが代表的な姿となっているようですが、みなさんはどちら派でしょうか。

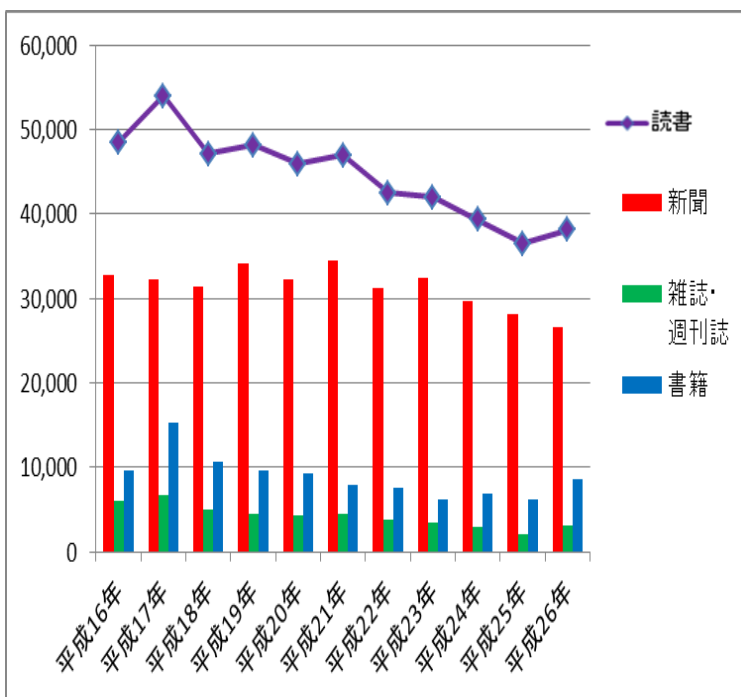
最近は、本を広げているのは年配の方で若い人たちはもっぱらスマートフォンに夢中でしきりにディスプレイを弾いたり、左右に滑らせたりしているイメージがあります。

今回は、家計調査の調査結果から各家庭の支出から見た、通勤バスの中での景色の裏付けを取ってみたいと思います。

まず、読書について、熊本市のここ10年の家計の年間支出金額をみると、年々コンスタント？に減少する傾向にあり、平成26年は38,106円と、平成16年の48,462円と比較すると、21.4%減少しています(図1)。

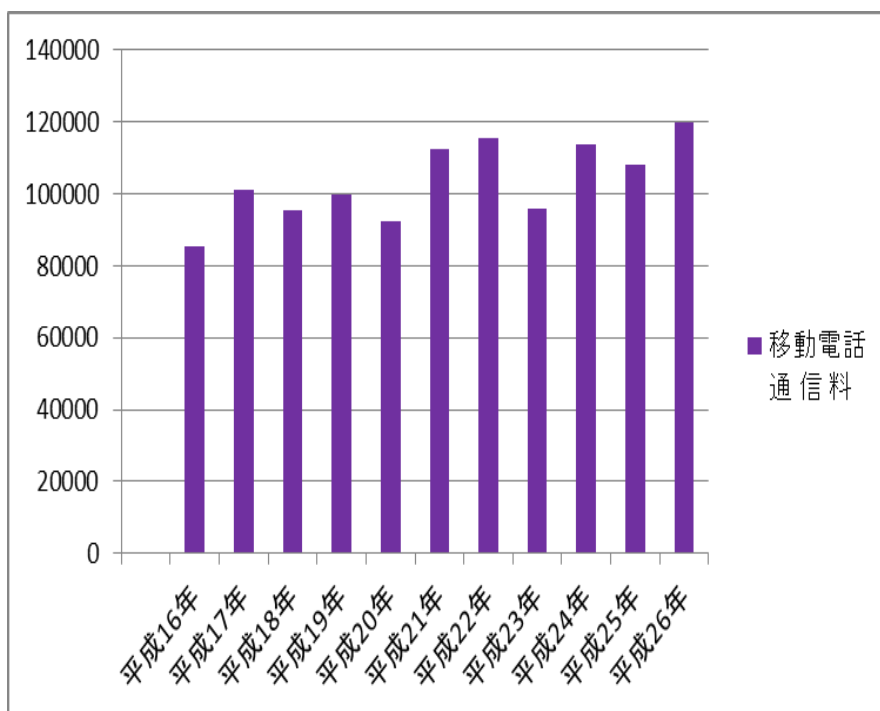
この「読書」の内訳は、「新聞」、「雑誌(週刊誌を含む)」、「書籍」からなっており、それぞれ19.2%、49.0%、11.8%の減であり、確かに支出の面からも減少が明確であり、読書の秋には寂しい結果となりました。

(図1)「読書」の支出状況の推移(熊本市)



(出典：家計調査にみる都道府県庁所在地ランキング)

(図2)「移動電話通信料」の支出状況の推移(熊本市)



一方、スマートフォンや携帯電話に代表される移動電話通信料の支出については、読書と反して年々増加する傾向にあり、スマホやタブレットなどの通信機器が広がっていることがわかります。

なお、平成26年は119,728円と平成16年の85,209円と比較すると40.5%の顕著な増加となっています。

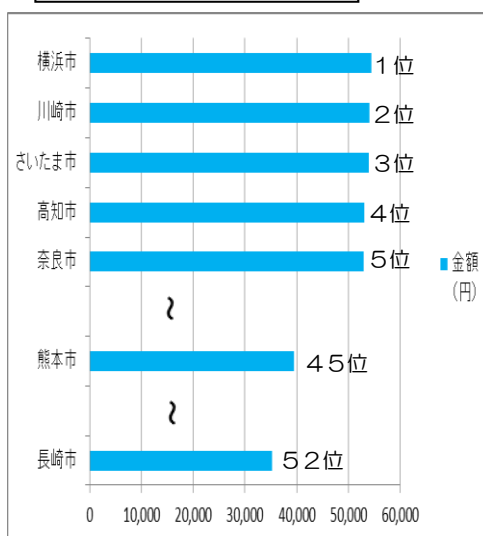


(出典：家計調査にみる都道府県庁所在地ランキング)

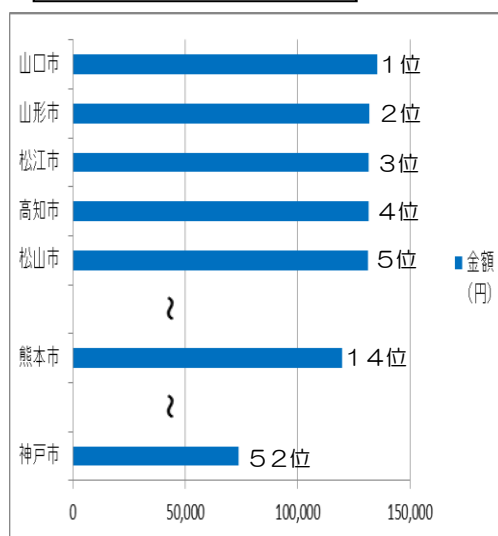
「読書」の全国順位

全国で見ると、平成26年は、読書は45位であり、携帯等の移動電話通信料は14位でした。

スマホもいいけど、秋の夜長に読書にふけてみてはいかがでしょうか。



「携帯等」の全国順位



(出典：家計調査にみる都道府県庁所在地ランキング)

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、11月27日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax:096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成27年11月27日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

熊本県の「ひのき」は全国1位！

～くまもとは、林業もすごい～



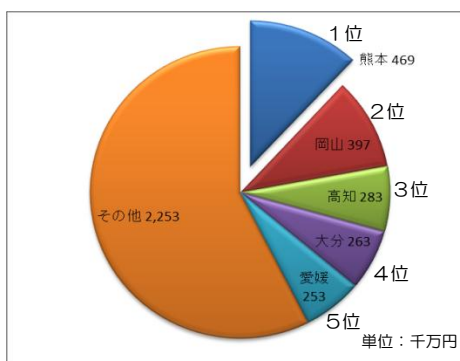
「熊本県」といえば、トマトやスイカなど、全国1位の農産物があり、農業がとてさかななこと有名です。

でも、実は、林業もすごいんです。

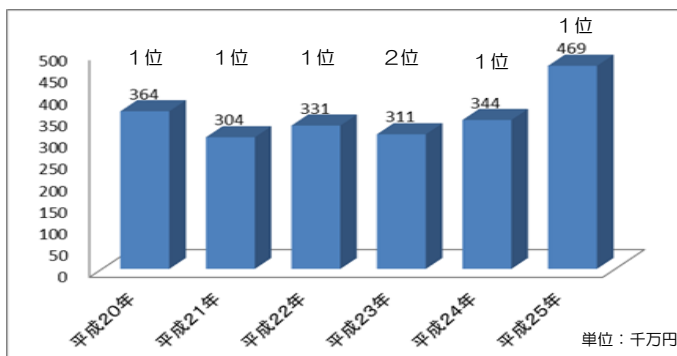
それでは、熊本県の林業産出額のうち、木材生産額、「ひのき」と「すぎ」の生産額と全国順位を見てみましょう。

まず、平成25年の木材生産額は、134億7千万円で、北海道、宮崎県、岩手県について第4位となっています。

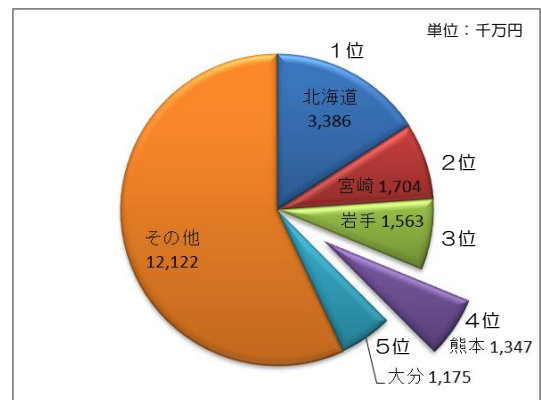
(図2) 平成25年 ひのきの産出額



(図3) ひのきの産出額推移



(図1) 平成25年 林業産出額(木材生産)

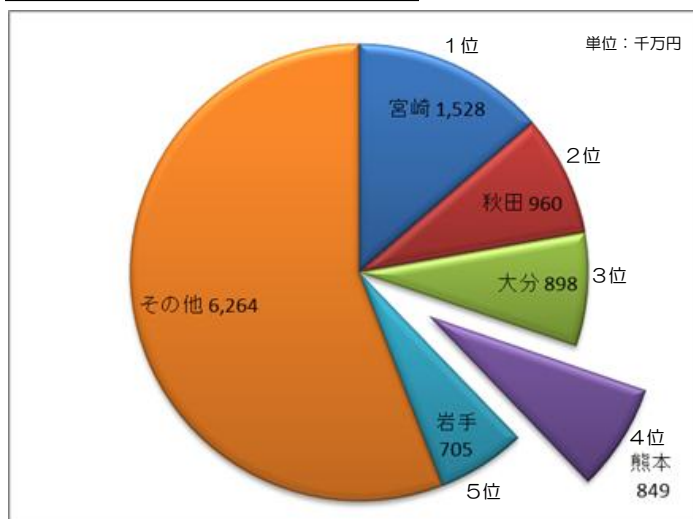


今度は、その木材生産額を品目ごとにしてみると、なんと、熊本県の「ひのき」の産出額は46億9千万円で、**全国第1位**です。

第2位は岡山県、第3位は高知県となっています。

また、平成20年以降は、平成23年の第2位を除くと**全国第1位**を取り続けています。

(図4) 平成25年 すぎの産出額



つぎは、「**すぎ**」を見てみることにしましょう。

熊本県の産出額は84億9千万円で、**全国第4位**です。

第1位は宮崎県、第2位は秋田県、第3位は大分県で、第1位、第3位、第4位を九州で占めています。

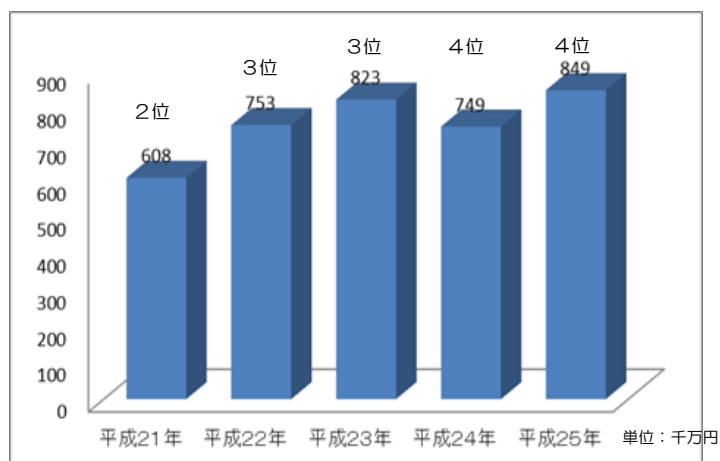
また、平成21年は、全国第2位でしたが、その後は、産出額は増加しているものの徐々に順位が下がっていき、平成24年には第4位となっています。



これまで見てきたように、木材生産の産出額は**全国第4位**、「**すぎ**」の産出額も**全国第4位**、「**ひのき**」の産出額はなんと**全国第1位**という全国のトップクラスであります。



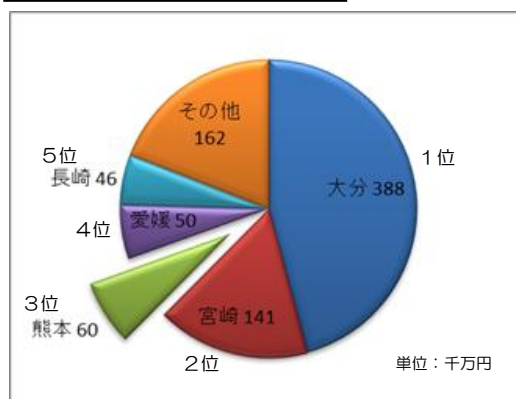
(図5) すぎの産出額推移



ところで、この「生産林業所得統計」では、木材の生産額だけではなく、栽培きのこ類の生産額のデータもあり、この中の「**しいたけ(乾燥)**」をみると、熊本県は6億円で、**全国第3位**となっています。

木材だけではなくきのこも熊本県はすごいんですね。

(図6) しいたけ(乾燥)の産出額



出典：生産林業所得統計(農林水産省)

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、12月25日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成27年12月25日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



がんばってます“くまもと農業”！！

～ 2015年農林業センサスの結果(概要)から ～

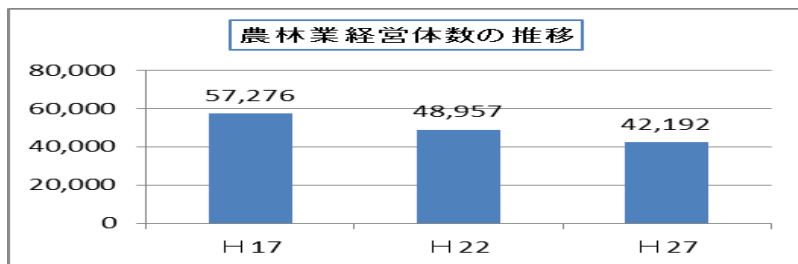
農林業センサスは、我が国農林業の生産構造や就業構造の実態を明らかにし、国や地方公共団体の農林業施策の企画・立案・推進のための基礎資料を得るために実施されています。5年ごとに実施されており、「農林業の国勢調査」とも呼ばれています。

今回は、その概要が11月末に公表（調査期日：平成27年2月1日）されたので、その内容から”くまもと農業”の現状を見てみたいと思います。

《概要その1：農林業経営体数の減少》

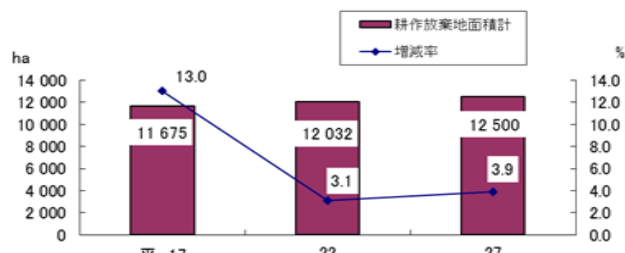
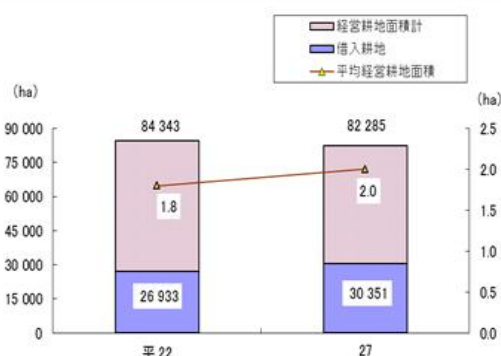
農林業経営体数 42,192 経営体で、前回2010年農林業センサスに比べ13.8%の減少（全国18.8%減）となりました。

※農林業経営体：農林産物の生産を行うか又は委託を受けて農林産業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が一定数以上の事業を行うものをいう。



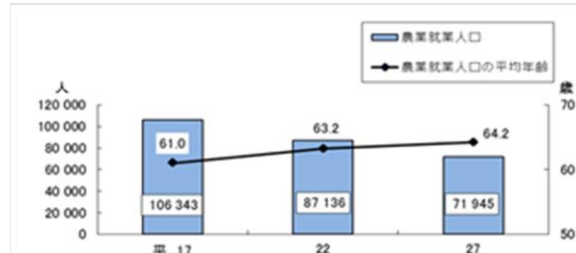
《概要その2：農業経営体の経営耕地面積の減少と耕作放棄地面積の増加》

経営耕地面積は、82,285ha で前回に比較し2.4%の減少（全国5.3%の減少）となり、耕作放棄地面積が12,500ha で前回に比較し、3.9%の増加（全国7.1%の増加）となりました。



《その3：農業就業人口の減少と高齢化の進捗》

農業就業人口は、71,945 人で前回に比較し17.4%減少（全国19.8%減）し、平均年齢で64.2歳（全国66.3歳）と高齢化が進んでいます。



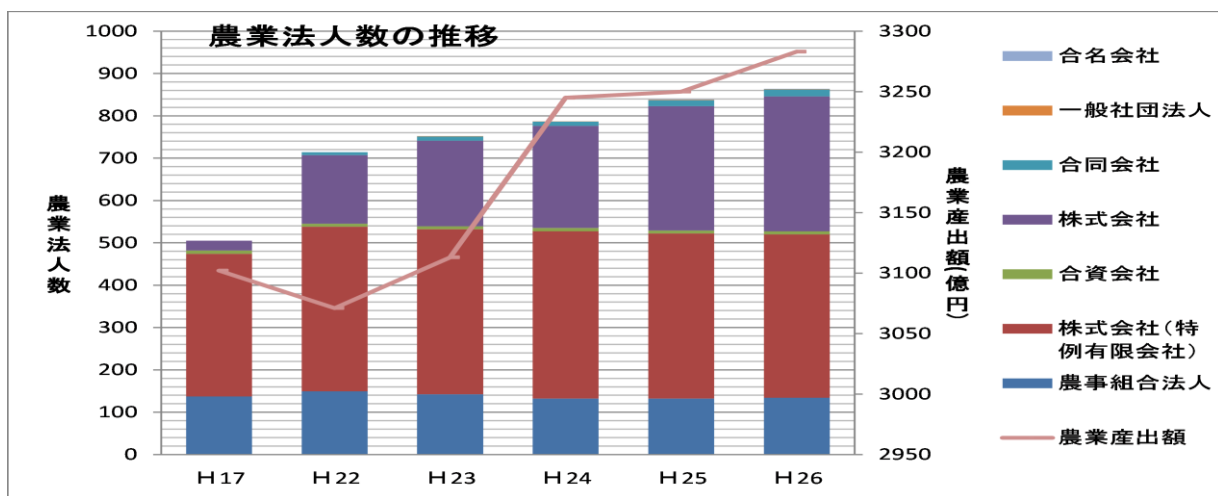
出典：2015年農林業センサス（農林水産省）

このように、農業経営体数や経営耕地面積の減少、耕作放棄地の増加、就業人口の減少と高齢化進展等の状況がありますが、全国に比べると健闘していることが分かります。また、農業法人数の増加や農業生産額の推移からも頑張っている”くまもと農業”の姿が見えてきます。



《農業生産法人の増加と生産性の向上》

平成 17 年度末の農業法人数は 505 法人でしたが、平成 26 年度末には 861 法人となっており、これに併せ、法人の新規雇用就農者も増加傾向（H26 年度 248 人）にあり、雇用面での新たな受け皿となっています。また、平成 26 年の熊本県の農業産出額（推計値）は、3,283 億円で前年に比べ 33 億円（1.0%）の増加、宮崎県について全国第 6 位（H25 年 3,250 億円 第 5 位）となっています。



出典：熊本県農業動向年報（H25～26 年度）



《新たな取り組み》

一昨年の大津町や今年の嘉島町に見られるように、町単位の農地を経営単位とするような大規模農事組合法人の設立が相次ぎ、一般法人組織の農業への参入を含め、農林業経営体数の減少を法人化によりカバーしようとする動きが出てきています。また、大規模集約化は、産業としての生産性の向上にも貢献しているようです。

今後なお一層、農地の集約化や 6 次産業化と農産品輸出拡大の取り組みがうまく連動して、更なる雇用機会の拡大と地域産業の振興に繋がって欲しいものですね。

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、1月29日（金曜日）に掲載予定です。

問合せ先：熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話：096-333-2174 / Fax：096-384-7544 / メール：toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

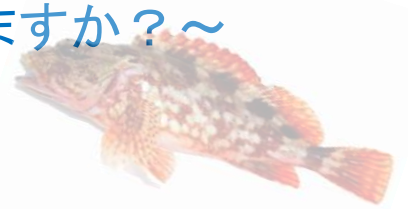
熊本の統計情報 平成28年1月29日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

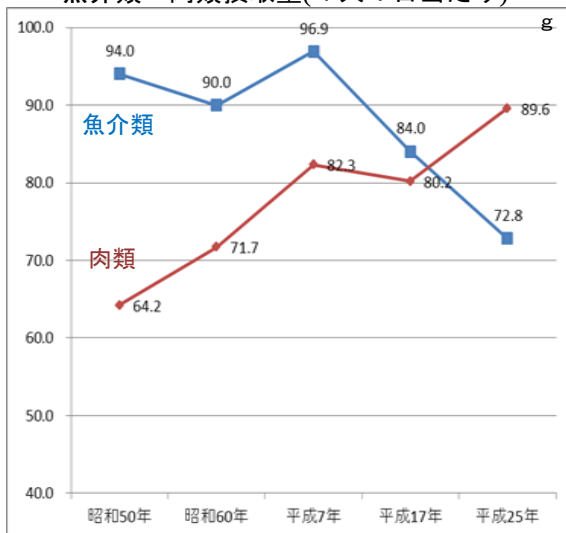
「おさかな」天国くまもと

～みなさん、「おさかな」を食べていますか？～



近年、日本人は魚介類の摂取量が減ってきていると言われています。

魚介類・肉類摂取量(1人1日当たり)



出典:国民健康・栄養調査(厚生労働省)

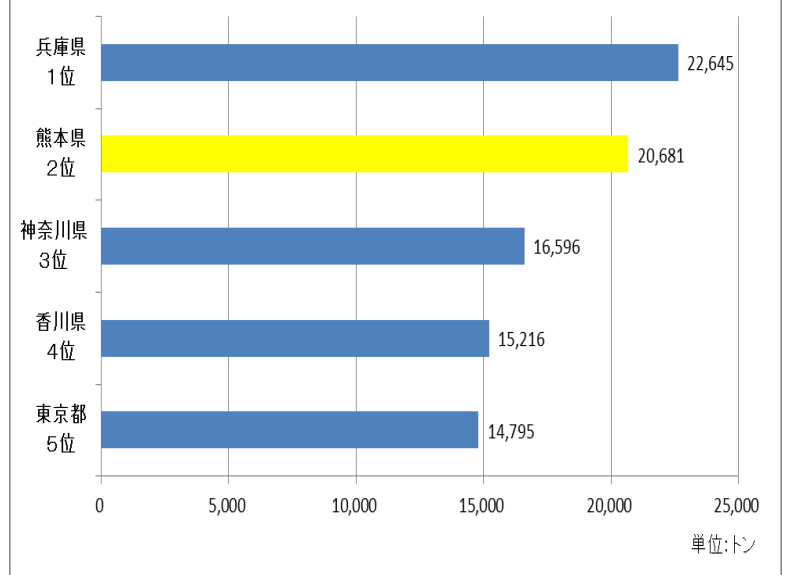
今回は、各種統計から熊本県の「おさかな」に関する情報をお届けします。

まず、農林水産省の統計である2013年漁業センサスの「魚市場の部」によると、本県の「活魚」の年間取扱高(数量)は、全国第2位となっています。

そこで、厚生労働省の国民健康・栄養調査(平成25年)の食品群別摂取量(1人1日当たり)を全国ベースで見ると、魚介類は、昭和50年が94.0g、平成25年は72.8gと約40年の間に約22.6%も減っています。

それにひきかえ肉類は、昭和50年が64.2g、平成25年は89.6gと約39.6%も増えています。

(H25)魚市場「活魚」年間取扱高(数量)



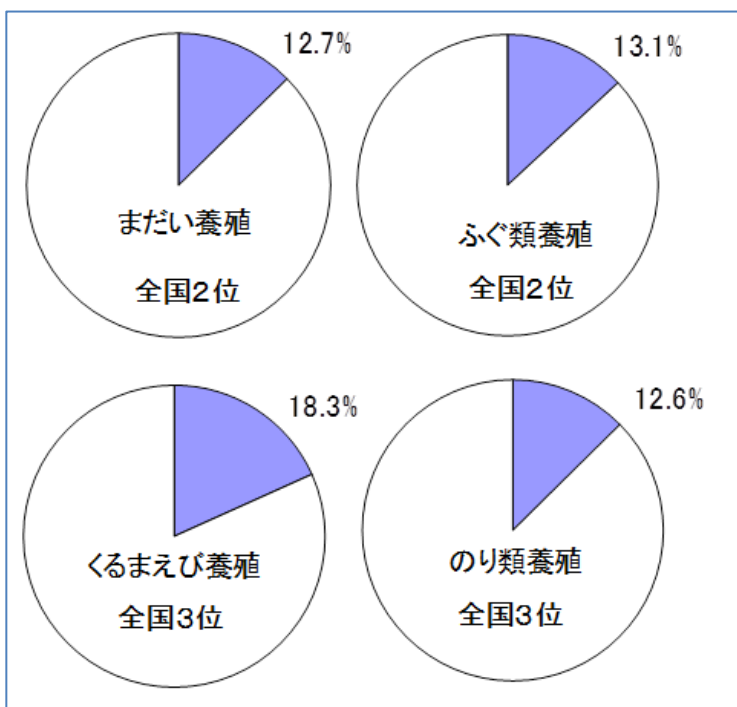
出典:2013年漁業センサス(農林水産省)

また、同じ農林水産省の統計である「漁業生産額」(平成25年)によると、本県の養殖漁業(海面)の生産額で、「まだい」・「ふぐ類」は全国第2位、「くるまえばい」・「のり類」は全国第3位であります。ほかに、「ぶり」は全国第6位と上位に位置しています。

それに、海面漁業では、「このしろ」が全国第3位と上位にあります。



養殖種類別生産額の全国に占める割合 (H25)



出典: 漁業生産額(H25) (農林水産省)

生鮮魚介の一世帯当たり購入金額・数量

順位	市名	金額(円)	順位	市名	数量(g)
	全国	45,117		全国	30,582
1	京都市	53,618	1	青森市	47,342
2	富山市	53,566	2	鳥取市	42,935
3	広島市	52,047	3	新潟市	41,923
4	長崎市	50,592	4	秋田市	40,139
5	和歌山市	50,479	5	松江市	39,059
41	熊本市	37,824	39	熊本市	25,667
43	鹿児島市	36,748	43	さいたま市	25,104
44	宮崎市	35,512	44	宇都宮市	25,018
45	宇都宮市	35,137	45	前橋市	24,845
46	岐阜市	34,492	46	岐阜市	23,944
47	那覇市	25,896	47	那覇市	18,979

出典: 家計調査(H25) 年報 家計収支編 二人以上の世帯(総務省統計局)

これまでの“魚市場「活魚」年間取扱高”や“漁業生産額”をみると、本県は「おさかな」の生産が上位であるので、魚の消費量も多いかと思いきや、家計調査(平成25年)によると、本県(熊本市)の「生鮮魚介」の購入数量(二人以上の世帯)を見ると、全国39位という結果であり、一概に流通・生産量と消費量は比例しないようです。

それでは、とても寒い今年の冬は熊本県の豊かな「海の幸」を使った、おいしくて栄養満点の海鮮鍋や水炊きに舌鼓を打ってみてはいかがでしょうか。

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、2月26日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒869-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年2月26日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。

さくらさくら

～待ち遠しい春の訪れ～



思えば昨年、このまま暖冬で終わるんじゃないか…という甘い期待？をよそに、明けて1月下旬に強い寒波が猛威を振るい、日本全国を駆け巡りました。

本県でもまだまだ寒い日が続いていますが、予報によれば今週末～来週末までがピーク。やがて訪れる春に備え、さくらの木はつぼみを付けて今かいまかと出番を待っています。

さて、毎年のことながら、さくら前線が話題にのぼる季節となりました。

そこで、くまもとのさくらの開花について、気象庁のデータをもとにご紹介します。

さくらの開花日・・・標本木で5～6輪以上の花が開いた状態となった最初の日をいいます。(気象庁)

開花日と3月気温(1961～1970年,2006～2015年)

地点:熊本

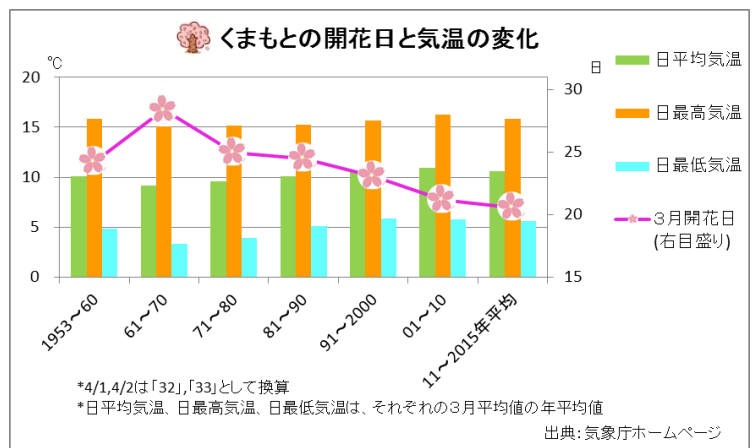
年	開花月日	日平均気温	日最高気温(a)	日最低気温(b)
1961	3/24	10.8	17.1	4.9
1962	4/ 2	8.7	14.8	3.2
1963	4/ 1	8.8	15.6	2.5
1964	3/29	9.7	15.6	3.5
1965	3/30	7.4	14.0	0.6
1966	3/18	11.3	16.9	5.6
1967	3/27	10.0	15.7	4.5
1968	3/29	9.6	15.8	3.5
1969	3/30	8.5	13.7	3.2
1970	4/ 1	6.9	11.8	1.7
2006	3/20	10.0	15.4	5.0
2007	3/23	11.5	17.2	6.0
2008	3/22	11.2	16.9	5.7
2009	3/16	11.5	16.5	6.6
2010	3/16	11.3	15.8	7.1
2011	3/21	8.3	14.0	2.9
2012	3/25	10.7	15.2	6.5
2013	3/16	12.0	17.5	6.7
2014	3/20	11.3	16.4	5.9
2015	3/21	10.9	16.1	6.1

*日平均気温、日最高気温、日最低気温は、それぞれの3月平均値

・・・4/ 1以降の開花

出典:気象庁ホームページ

・・・3/19以前の開花



開花日の各年変化、また、気温との相関については、過去にいろいろな研究がなされているようです。

上のグラフをみると、この半世紀は、気温の上昇とともに開花日が早まる傾向がうかがえます。

左の表で具体的に各年の開花日をみると、(1961-1970年)は3月末近くから4月初旬の開花が多かったのですが、(2006-2015年)の10年間は全体として早まっており、もっとも遅い年でも3月25日となっています。

下の表は全国の開花状況の一部地点を比べてみたものです。
くまもとは、沖縄の開花から2か月余り、春分の日ごろの開花
となっています。



南から北まで約 2900 km
を 120 日間ほどかけて北上
しています。

さくらの種類が異なるので
単純な比較はできませんが、
この5年間で最も早かった
のが石垣島の2011年12
月24日、最も遅かった
のは稚内の2013年5月26
日でした。

この時期、全国各地のさく
ら巡りというのも面白いかも
しれないですね。

全国のさくら開花日の状況(抜粋)

地点名	2011 月 日	2012 月 日	2013 月 日	2014 月 日	2015 月 日	平年値 月 日	代替種目
稚 内	5 19	5 14	5 26	5 11	5 3	5 14	えぞやまざくら
釧 路	5 18	5 17	5 23	5 12	5 6	5 17	えぞやまざくら
東 京	3 28	3 31	3 16	3 25	3 23	3 26	
大 阪	3 31	4 2	3 21	3 27	3 26	3 28	
福 岡	3 22	3 27	3 13	3 19	3 22	3 23	
熊 本	3 21	3 25	3 16	3 20	3 21	3 23	
石垣島	1 17	12 24#	1 22	1 16	1 6	1 16	ひかんざくら
那 覇	1 7	1 22	12 28#	1 15	1 15	1 18	ひかんざくら

*代替種目が空欄の地点はそめいよしのを観測

出典: 気象庁ホームページ

*平年値は、1981-2010年の平均値

*「#」は、前年に観測したことを表す

日本気象協会によれば、くまもとにおける今年の開花予想(2月24日現在)は
3月26日頃となっていますので、平年に比べてやや遅いようです。



気象庁『生物季節観測の情報』より

もんしろちょうの初見日	3月 8日
つばめの初見日	3月 15日
ほたるの初見日	4月 18日
あじさいの開花日	6月 1日
あぶらぜみの初鳴日	7月 8日
いちょうの黄葉日	12月 16日
かえでの紅葉日	12月 16日



自然の営みの中で草木や動物たちの態様は次々と移り変わり、巡る季節に彩りを添えています。

さくらの開花のほかにも、くまもとの四季折々の兆しを教えてくれる生き物の情報を気象庁のホームページで見ることができます。

ご興味のある方はご覧ください。

気象庁ホームページ >> 生物季節観測の情報

(<http://www.data.jma.go.jp/sakura/data/index.html>)

2015年 地点: 熊本



熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、3月25日(金曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp

統計アラカルト

熊本の統計情報 平成28年3月25日

県民の皆様に統計を身近に感じていただくためのページです。

毎月1回のペースで色々な統計に関する話題・データを紹介します。



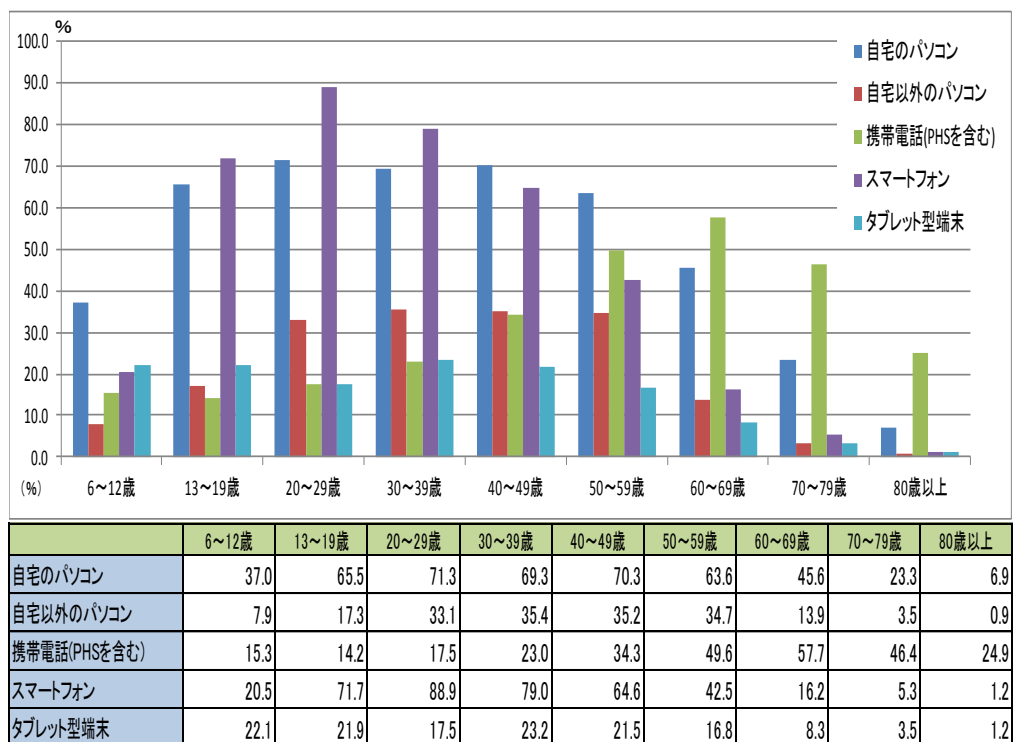
現実からの逃避？

～ SNS利用における気になるところ ～



このごろは、短い文章を投稿したり、友だち同士がメッセージや写真などを共有してコミュニケーションを取ったりする、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)が普及してきました。主に、趣味や居住地域、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて新たな人間関係を築くことを可能にするサービスですが、普及が進むにつれ、その利用の目的やユーザーの年齢も幅広くなっているようです。

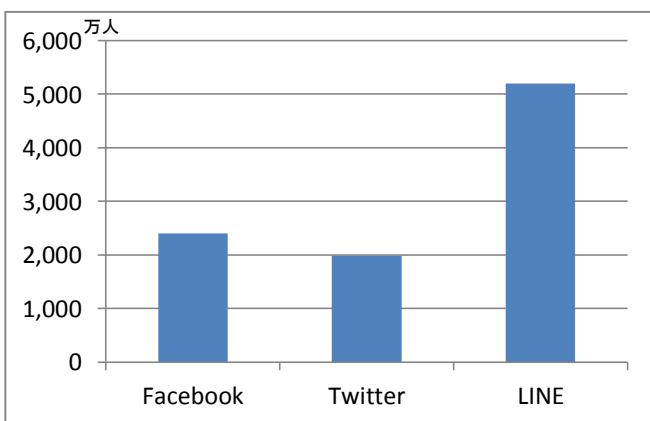
まず、SNSを利用するために必要な、情報通信機器の保有状況を年齢別にみてみます。49歳以下の各年齢層では「スマートフォン」の保有割合が「携帯電話」を上回っており、13歳～39歳の各年齢層においては「自宅のパソコン」をも上回っています。この手軽さこそ、SNS躍進の要因のひとつなのかもしれませんね。



総務省「平成26年通信利用動向調査」より

次に、日本国内でのSNS利用状況をみてみましょう。最近、何かと話題の「LINE」ですが、2013年以降急速にシェアを伸ばしつつあり、国内でのユーザー数は5,000万人を超えました。単純に、日本人の約半分が利用していることになります。

ただ、世界的には「フェイスブック」のユーザー数は、なんと14億人(!)に迫っているようで、その勢いはしばらく続きそうです。



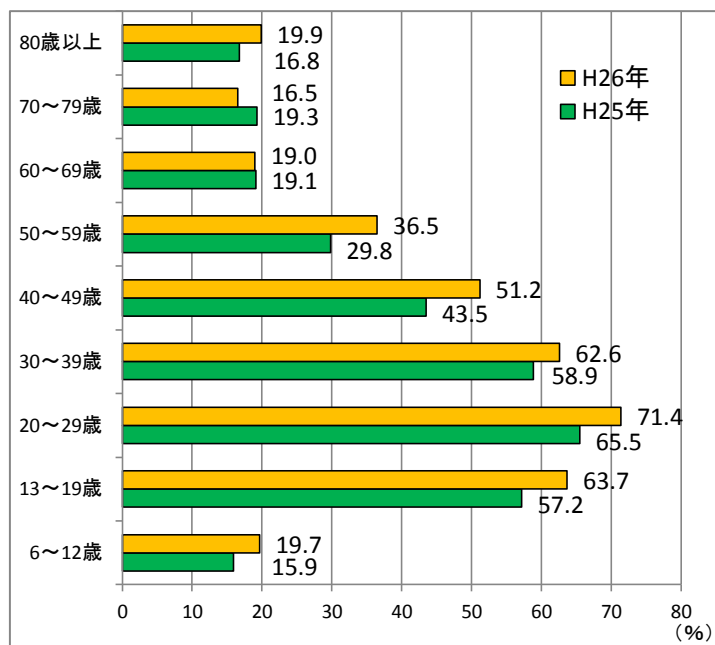
「2015年保存版ソーシャルメディアのデータまとめ一覧」より

右のグラフは、年齢階層別にみるSNSメディアの利用状況です。60～79歳以外の全ての年齢層で、利用率の拡大傾向がみられます。

特に40歳代の伸び率が顕著(+7.7%)で、これまであまり馴染のなかった年齢層にも、SNSが浸透しつつあるようです。

驚いたことに、6～12歳の小学生層(+3.8%)や80歳を超える高齢層(+3.1%)においても利用率が伸びています。

もはやSNSは、日本人にとって、なくてはならないコミュニケーション手段のひとつとなっているようです。



総務省「平成26年通信利用動向調査」より

最後に、熊本県におけるSNSの利用目的を覗いてみましょう。

「交流関係を広げるため」や「ボランティア活動等のため」といった、新たな人間関係の構築や社会貢献を目的とした利用者の割合が、全国に比べて高いようです。

反対に、「ストレス解消」だの「現実からの逃避」だのといった殺伐とした(?)目的の利用者は少ないようで、健全な(?)利用状況が垣間見えます。

利用目的	全国 (%)	熊本 (%)	順位
従来からの知人とのコミュニケーションのため	79.5	74.4	42位
知りたいことについて情報を探するため	37.5	35.1	36位
同じ趣味・嗜好を持つ人を探したり交流関係を広げるため	18.0	21.2	5位
自分の情報や作品を発表したいから	7.7	5.7	33位
同じ悩み事や相談事を持つ人を探すため	3.1	2.0	36位
ボランティア活動や社会貢献をするため	1.5	2.9	3位
災害発生時の情報収集・発信のため	6.4	5.4	24位
昔の友人・知人を探すため	8.0	6.8	22位
ストレスを解消するため	6.9	2.0	46位
ひまつぶしのため	28.0	27.2	26位
現実から逃避するため	2.1	0.6	46位
その他	3.3	3.2	26位
無回答	6.5	13.1	1位

総務省「平成26年通信利用動向調査」より

いかがでしたでしょうか。こうしてみると、年齢や利用目的に違いはあれど、SNSがコミュニケーションツールとして広く浸透していることがわかります。ただ、個人情報の流出等の危険性や、SNSから離れられなくなる依存性も指摘されています。

みなさん、何事もほどほどに...

ところで、統計調査課もSNSをはじめます。詳しい情報は今後の統計アラカルトでお知らせします。

熊本県の統計情報は

「http://www.pref.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=3&class_set_id=1&class_id=1297」をご覧ください。

次回の「統計アラカルト」は、4月28日(木曜日)に掲載予定です。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・情報局統計調査課 総務資料班 〒862-8570 熊本市中央区水前寺6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544 / メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp